

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 25 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370216

研究課題名(和文) 東海地域近世・近代能楽資料の収集・整理とアーカイブ化

研究課題名(英文) Collection and digitalization the materials of Noh performance held in the Tokai district for building the "archives".

研究代表者

飯塚 恵理人 (Iizuka, Erito)

椋山女学園大学・文化情報学部・教授

研究者番号：00232132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：平成27年に東海地方で行われた能楽催しの番組を収集・整理して入力した。岐阜県中津川市の明治期から昭和40年代まで活動継続した松本長・高橋徳之に師事した中津宝生会の活動について調査し、会員である中津川の素封家菅井大作氏と松本長の交流についてまとめた。また戦後中津川謡曲連盟会長岩田豊治氏が塚本秀雄を招いて戦後から昭和五十年代まで活動した中津川塚本社中の活動について調査しまとめた。

研究成果の概要(英文)：I collected and digitalized the programs of a Noh event held in the Tokai district in 2015. I investigated about the Nakatsu Hoshō Kai of Noh society in Nakatsugawa-shi that was learned under Nagashi Matsumoto, Noriyuki Takahashi who performed from the Meiji period to Showa 40th. I gathered it up about interchange of Nagashi Matsumoto and rich civilian, Daisaku Sugai who was a member of Nakatsu Hoshō Kai. In addition, I investigated about the Nakatsugawa Tsukamoto Noh society was learned under Hideo Tsukamoto invited by Toyoji Iwata, the first Nakatsugawa Yokyoku association chairperson. This society was active after a war until the Showa 50th.

研究分野：国文学

キーワード：能楽 東海地域 近代

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 能楽番組の全国的な収集とデータベース化を最初に提唱して推進したのは、元法政大学能楽研究所教授の故表章氏である。同氏が研究代表者となった1991年度～1993年度「演能記録の全国的総合調査と演能年表の編纂」(科学研究費助成「総合研究(A)」)および1999年度～2002年度「中世から近世・近代にいたる都市と能楽の関係についての総合的研究」では、「(1)全国の地方諸藩の能楽資料の残存状況を調査し、(2)藩政日記中の演能記事、演出資料、演能記録等を可能な限り収集・整理し、(3)地方各都市における能楽の浸透の程度や演能の際の経済的基盤、役者確保の方法、技法の伝播の仕方など、様々な問題を具体的な資料によって跡づける作業を行ってきた。その結果、資料収集の面では、予想通り各藩の藩政日記は能楽資料の宝庫であることが確認され、特に東北・北陸諸藩を中心に撮影・収集が進んだ。(中略)比較的資料が限られた小藩に関しては、調査・考察が行き届き、複数の都市について、まとまった研究成果を挙げる事ができた。」(同研究報告書より)という成果を挙げた。しかしこの研究では名古屋を中心とする東海地域についてあまり調査が行われなかったため、飯塚・三木はこの研究手法を学びつつ、これを「東海地域」の「近代」の能楽資料に応用したいと考えた。

(2) 平成13年に『近代名古屋の能楽を支えた人々』(全3冊)(深谷哲監修 筧鉦一・飯塚恵理人編集 三木邦弘プログラム作成)をまとめた。これは(一)(二)の二冊が明治元年から昭和63年までの東海地域で行われた能楽番組集、(三)が演目索引・人名索引である。この本によって、東海地域の明治以降の能楽の担い手の変遷が明らかになった。現在東海地域の能楽番組のデータは平成26年分まで入力終了し、公開許可が取れたものから順次、椋山女学園大学三木邦弘研究室の「能楽番組検索システム」(ホームページアドレス <http://zeami.ci.sugiyama-u.ac.jp/~miki/search.html>)において公開している。なお筧師が収集した能楽番組の原本はすべて椋山女学園大学図書館に収め、順次画像のデジタル化を進め、暫定的に昭和46年分までを同上ホームページより公開している。

(3) 平成になってから能楽稽古人口が減り、東海地域でも東京在の役者が「興行」として能を催すようになった。作成したデータベースにこれらの変化が後期部分で現れ始めており、それを計量的に明確にするために、平成以降の能楽番組もデータベース化する必要があると感じている。またこれらデータベースの解析および附属資料を通して、江戸時代と明治以降の東海地域の能楽界では出演者や後援者の階層が大きく変化したこと、マスメディアの普及が「謡い方」に大きな影響を及ぼしたことが明らかになり、それら知見を『近代能楽史の研究 東海地域を中心に』

(飯塚恵理人著「研究業績」欄)にまとめたが、さらに論を展開するため補強資料が必要である。御三家の一つである尾張藩では、「御役者」(藩に仕えている能楽師)が名古屋だけでなく江戸、京都、奈良などにも住んでいた。彼らと居住地の能楽の関わり、そこから上がる収入と藩からの扶持や手当との関わりなど、御役者というシステムを維持して行く機構を解明するために、御役者の子孫が所蔵する手紙・門人帳等の資料の整理と翻刻が不可避であると考えた。

## 2. 研究の目的

(1) 東海地域は「芸どころ」と呼ばれ、全国的に見ても現在でも能楽の盛んな地域である。近世に尾張藩や藤堂藩が御役者を抱えるなどして保護した流儀が、現在でもその土地に根付き、独自の能楽文化を作っている。本研究は江戸時代から現在に至る東海地域の能楽の歴史を収集資料に基づき明らかにし、またその資料を広く利用できるようデータベース化することを目的とする。収集する資料は、尾張藩御役者・素人の能楽愛好者の子孫が所蔵する伝書や手紙類、山車囃子関係者や伊勢など他東海地域の社寺の奉納能に関わった者の家が所蔵する伝書類、手紙や能番組等。また明治以降はマスメディアの影響について検討するべく当時の新聞・雑誌、能番組、写真・録音などである。これらを収集・整理し、最終的にはデータベース機能付アーカイブ構築を目指す。データベースの解析および附属資料を通して、江戸時代と明治以降の東海地域の能楽界では出演者や後援者の階層が大きく変化したこと、マスメディアの普及が「謡い方」に大きな影響を及ぼしたことが明らかになり、それら知見を『近代能楽史の研究 東海地域を中心に』(飯塚恵理人著「研究業績」欄)にまとめたが、さらに論を展開するため補強資料が必要である。御三家の一つである尾張藩では、「御役者」(藩に仕えている能楽師)が名古屋だけでなく江戸、京都、奈良などにも住んでいた。

## 3. 研究の方法

### (1) (平成26年度)

・平成24～25年に東海地域で行われた能楽番組を収集・整理・データベース化する。

・尾張藩御役者の子孫・後継者の伝書・門人帳等の整理・翻刻をする(大倉三忠師・佐藤友彦師)

・梅若研能会所蔵の明治から戦前の地方進出の折の写真・フィルムを調査してデジタル化する。

・明治、戦前の謡曲SPレコード、昭和30年代のオープンリール録音を収集しデジタル化する。

・杉浦賢次氏が撮影された昭和末年の能楽写真を整理・デジタル化する。

(2) (27年度)・対象能楽番組の年度を平成25～26年とし研究を継続する。

(3)(28年度)・平成27年28年の能番組と伊勢勝田流の江戸期から現在までの番組を対象として研究を継続する。  
・収集・整理した資料目録を作成し論文誌「名古屋芸能文化」に投稿する。

#### 4. 研究成果

・平成25年26年27年28年に東海地域で行われた能番組を収集、整理した

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 32 件)

飯塚恵理人、大正から昭和戦前までの観世流謡曲免状の発行、平成29年3月、東海能楽研究会、「東海能楽研究会年報」第21号、P.9-10、査読なし

飯塚恵理人、《藤》間狂言の翻刻と諸本比較、平成28年3月、東海能楽研究会「東海能楽研究会年報」第20号、P.9-11、査読なし

飯塚恵理人、資料紹介「飯塚恵理人宛辻山幸一氏書簡(2015年11月29日消印)」平成28年3月、椋山人間学センター「椋山人間学研究」第11巻、P.156-165、査読なし

飯塚恵理人、「幕末から明治20年代の名古屋能楽界～能楽の新しい担い手の顕在化～」、「日本音楽学会中部支部通信」査読あり(依頼原稿) 第79号、P.5-7、2016

飯塚恵理人、「ラジオ放送と蓄音機レコードが変えた謡曲の質 囃子方にシテ方が合わせる時代へ」、「椋山女学園大学文化情報学部紀要」査読なし、第15巻、P.13-17、2016

飯塚恵理人、「佐藤友彦師所蔵 九冊本間狂言『項語間』」飯塚恵理人「椋山女学園大学研究論集」査読なし、第47号、人文科学編、P.1-19、2016

飯塚恵理人、「《巻絹》試解 巫女に憑依する神」、「紫明」査読あり(依頼原稿) 第38号、P.60-64、2016

飯塚恵理人、渡辺康「能楽囃子の義務教育課程音楽課程での単元化のための教材試作」、「椋山女学園大学教育学部紀要」査読なし、第9巻、P.89-98、2016

飯塚恵理人、「佐藤友彦師所蔵 九冊本間狂言『女間』」、「椋山女学園大学研究論集」査読なし、第46号、人文科学編P.27-50、2015

飯塚恵理人、「昭和の東海地域能楽界の写

真資料紹介」、「名古屋芸能文化」査読なし、第25号、P.1-7、2015

飯塚恵理人、「戦前から戦後復興期の東海地域能楽写真」、「東海能楽研究会 二十周年記念論集」査読なし、P.124-129、2015

飯塚恵理人、「戦前から昭和四十年代までの東濃地方での宝生流謡曲の流行について 中津宝生会の記録と写真を中心に」、「宝生」査読あり(依頼原稿) 第36号、P.23-25、2015

飯塚恵理人、「《竹生島》試解 弁才天と水の能」、「紫明」査読あり(依頼原稿) 第36号、P.55-60、2015

飯塚恵理人、「バーチャル放送資料館設立の夢」放送文化基金ホームページ内、「読む・楽しむ」査読あり(依頼原稿) 2015 ([http://www.hbf.or.jp/magazine/article/project2015\\_vol1](http://www.hbf.or.jp/magazine/article/project2015_vol1))

飯塚恵理人、「金剛流《竹生島 女体》について」第二十四回廣田鑑賞会能パンフ、査読あり(依頼原稿) P.8-9、2015

飯塚恵理人、「《三輪》試解 恋の罪に迷う神」、「紫明」査読あり(依頼原稿) 第35号、P.80-84、2014

飯塚恵理人、「《経正》試解 琵琶の音と和漢朗詠集の朗詠利用を中心に」、「紫明」査読あり(依頼原稿) 第34号、P.56-61、2014

飯塚恵理人、「民放草創期放送音源及び放送劇団関係資料の収集・整理とアーカイブ化報告」、「椋山人間学研究」査読なし、第9巻、P.183-193、2014

飯塚恵理人、「佐藤友彦師所蔵 九冊本間狂言、『修羅 語間』」、「椋山女学園大学研究論集」査読なし、第45号、人文科学編、P.31-47、2014

飯塚恵理人、「室町時代礼法書に登場する武家の能の「故実」 『宗吾大艸紙』の猿楽関係記事から」、「東海能楽研究会年報」査読なし、第18号、P.4-5、2014

6. 研究組織

(1) 研究代表者

飯塚 恵理人 (Iizuka, Erito)  
梶山女学園大学・文化情報学部・教授  
研究者番号：00232132

(2) 研究分担者

三木 邦弘 (Miki, Kunihiro)  
梶山女学園大学・現代マネジメント学部・  
准教授  
研究者番号：80174001